

2012年度 早稲田大学 法学部

日本史 解答例

I 原始～近世の土器・陶磁器 <標準>

問1 弥生 問2 あ 問3 須恵器 問4 横穴式石室 問5 陶邑

問6 い・え 問7 え 問8 い 問9 妙喜庵 問10 う・お

問2・5・7を「やや難」、問6を難問と判定した。問5の「陶邑窯跡群」は「すえむらかまあとぐん」と読む。「陶邑」を書かせるというのは厳しかっただろう。通年授業では扱わないが、講習などでは紹介している用語だった。問8を難しく感じた人がいるかもしれないが、新安沖沈船については1999年の早稲田大学商学部でも出題されていた。その問題にくらべればずっと易しい。

II 『方丈記』 <難>

問1 福原 問2 う 問3 え 問4 安徳 問5 う

問6 え 問7 う 問8 藤原薬子 問9 え 問10 お

難問が問6・7・9・10と4つもある、かなり厳しい問題。そもそも『方丈記』の史料問題に備えていたかどうかで差がつくのだが、正誤判別にも相当悩まされる。問10の北前船については、用語集や岩波日本史辞典などでは「江戸中期から」と書かれているため、選択肢「う」の「江戸時代初期から」を誤りと判別したが、いっぼうで選択肢「お」の神戸事件については、「幕府」ではなく「新政府」が対応した事件だった。どちらも誤りと言いたいところだが、「明らかに誤っているもの」という条件から推測すると、大学側は解答を「お」としていると思われる。ちなみに「神戸事件」はEランク用語なので、ここで出されたからといって習得する必要はない。

III 足尾銅山鉍毒事件 <やや難>

問1 い 問2 古河市兵衛 問3 渡良瀬(川) 問4 え 問5 平民

問6 え 問7 谷中 問8 お 問9 あ 問10 う

問6・8が「やや難」で、問4・9が難問。これまたかなり厳しい問題。なかでもとりわけ難しかったのが、ハーグ万国平和会議について出題された問9。1899年の

最初の会議がロシア皇帝の提唱で開かれたのに対し、1907年の2回目の会議はアメリカの提唱によるものだという記述を見かけることがある。しかし、高校世界史の用語集などでも「ロシア皇帝の提唱による」となっていた。いっぽう選択肢「う」の「韓国国王」は、「韓国皇帝」の誤り。「こんなの細かすぎるよ！」と言いたくなるが、朝鮮は「大韓帝国」となった1897年に国王を「皇帝」に変えており、入試では「大韓帝国」となった年代までふつうに出題されているので、やはり見過ごすわけにはいかない。しかも、このハグ密使事件の後に「皇帝」が退位させられたことも有名である。

IV 近現代の政治・外交 <やや易>

問1 い・お 問2 治安維持法 問3 和辻哲郎 問4 い 問5 国家総動員法

問6 近衛文麿 問7 尾崎秀実 問8 え 問9 い 問10 え

難問は問9。尾崎秀実はマイナーだが、早稲田ではなく某大学で注意すべき人物であるため、冬期講習の「早慶難関大の日本史」で問題にあたってもらっておいた。記述問題であったところがやや厳しいが正解したい。

講評

例年の単純さとはうって変わって、非常に難しい正誤問題が並べられた。法学部ならではの用語を問う問題も消えている。しかも正誤問題は、単に判別に苦しむだけでなく、落とし穴の選択肢が用意されているため、思わず不正解を選ばされる。作問者サイドで何かあったのだろうかと思推したくなるほどだ。今後の対策としては、他学部のハイレベルな正誤問題を練習材料とすべきだろう。